

## 菊池のたたら製鉄

「稲作と鉄の文化」の伝来と共に弥生時代の菊池平野は、九州の有力な勢力の活動の場所となったことであろう。「稲作と鉄の文化」の伝来は、日本の歴史を大きく転換しました。北九州に伝わった鉄の文化は、魏志倭人伝に出てくる古代国家を再編成し、統一日本を形作ることになりました。その製鉄（たたら製鉄）の痕跡が残る所が、菊池にはあちこちにあります。

たたら製鉄の痕跡として、梶迫・小野崎・ずだぬく（稗方）・河原露・ふいご塚などの地名があります。「梶迫」は、鍛冶屋の迫でしょう。梶迫公民館の裏山には、現在でも山砂鉄の地層が1mほどの厚さで見られます。菊池川の砂鉄だけでなく山砂鉄を使っていたものと考えられます。ここには、梶迫遺跡などの古墳があり、古代国の一つの中心地であったろうと考えられます。

「小野崎遺跡」から弥生時代の鉄器や釣り針などが出土しています。海幸彦、山幸彦の釣り針と思われるような海の大きな魚を釣る鉄の針です。

菊池北小学校が10年ほど前に



堀切の山砂鉄

たたら製鉄法で日本刀を作りましたが、その時使った砂鉄は、「堀切の山砂鉄」でした。稗方の小字名に「ずだぬく」という地名があります。ここからたたら製鉄の跡や山砂鉄が発見されています。鞠智城の近くですので、古代山城国の製鉄場所であったでしょう。

菊池の古代史研究

中原 英

## 人権同和教育シリーズ⑥1 菊池南中学校3年 音光寺彩香

命

私は、ときどき命のことについて考えるときがあります。

「人生って何のためにあるんだろう」「死んだらどこにいこうのさ」「だろー」など、言い出したらきりがないくらい、たくさんさんの疑問が頭の中に浮かんできます。

私は以前、おばあちゃんの家で犬を飼っていました。名前はジョンといって、とてもかわい

い犬でした。ジョンは、とても活発でした。なので、おばあちゃん家の横が空き地だから、よく脱走して、空き地で遊んでいました。それから、ジョンは脱走するときに、へいを飛びこえて、つないである首輪をとって脱走していました。そんな活発で、いたずらをするジョンが、私は大好きでした。

そんなある日、私はいつものように家に帰ってきました。すると、お兄ちゃんが急に、思い出したように言いました。「ジョンが死んだ」私はお兄ちゃんが何を言っているのかわからなくて、

「何言ってるの？うそでしょ」私の目にはいつの間にか大粒の涙がたまっていて、その涙がボロボロこぼれてきました。あまりにも急なことだったので、全く信じられなくて、頭の中が真っ白でした。

あとから、おばあちゃんに電話をしてみると、死因は、首つりだったそうです。

ジョンは、いつものように脱走しようと思ったところ、たまにその日は、いつもよりきつい首輪をはめていたため、首輪がとれずに、そのまま首つりになってしまったそうです。

みなさんは、死んだらどこへ行くと思いますか？私は、天国に行くんじゃないかなとも思うし、もしかしたら、新たに何かに生まれ変わるんじゃないかな？とも思います。

もしかしたら、ジョンも今、何かに生まれ変わって、この世界のどこかにいるかもしれない。それはそれで嬉しいけれど、でも、それでも、ジョンという犬は、もうどこにもいません。どこにも存在しないんです。ジョンという存在は一つしかないんです。

だから私は、世界中の人に、もっともつと命を大切にしてい

しいんです。また、人生を大切にしてほしいんです。

みなさんは、タイムマシーンなどというものに、あこがれると思います。でも私は絶対に反対です。もしタイムマシンがあったら、過去が全部変わってしまったって、いろんなトラブルや、自分が2人になったりしてしまつかもしれないんです。そんなのゆるされません。私は一人しかいないんです。命は一つしかないんです。誰にだって後悔したこととかやり直したいことがたくさんあります。でも、これをやり直しできないからこそ人生なんです。人生楽ありや苦もありません。これが人生なんです。過去は変えられません。でもそのかわり、未来はいくらでも変えることができるんです。だから、みなさんもつと人生を楽しんでください。失敗したら、また次やればいいんです。

最後に私は、たった一つしかない命と、たった一度っきりの人生をもつと大切にし、失敗したことは、また次にいかせるように、一日一日がんばって過ごしたいです。

## シリーズ菊池遺産⑤

問い合わせ先  
企画振興課

☎0968(25)7250

### 村社佐保川八幡宮と春祭り秋祭り

延久2年に菊池則隆は菊池川右岸の深川一帯に菊の池城を築城後、祭神を応神天皇として佐保川八幡宮を勧請しました。その後、洪水や焼失により再建され、御遷座を経て平成8年に現在の社殿に改築されました。

また、春祭りのセリ摘み、稲荷大明神、秋祭りの七五三縄飾りづくり、門松飾りづくりなど、伝統・伝承行事として地域住民に継承されています。



認定番号 第ふるさと H21-12号  
推薦者 深川区

### 平野区皇大神宮

通称平野伊勢神宮と呼ばれる平野区皇大神宮は、平野区の先祖がお伊勢参りをしたときに、伊勢神宮の神札を受けて持ち帰り、お堂を建立したとされています。この加護によって平野地

区には火災が起こらなかつたといわれています。区の行事として、無病息災を祈願しながら年4回お神酒を供えてお伊勢参りをされています。



認定番号 第ふるさと H21-13号  
推薦者 平野区

### 他力放生石仏

5代細川綱利公のころ、城下に鍛冶職の親子が住んでいました。父七左衛門は生来の大酒呑みで怠け者でしたが、子どもは評判の孝行息子でした。ある日、酒のことで腹をたて、息子に向かって投げつけた火吹き竹が、表を通りかかった武士に当り、この武士に七左衛門は切り捨てられました。

その後、息子は仏門に入り、放牛と改めて父の菩提を弔うため107体の石仏を建立しました。この石仏は、50体目で享保13年9月に現在地に建立されたものです。



認定番号 第ふるさと H21-14号  
推薦者 平野区

### 延寿太郎屋敷跡

菊池氏に刀鍛冶として仕え、延寿の祖となった円寿太郎国村が、砂鉄の採取や用水・交通の便が良いなど、製鉄に適していた西寺に屋敷を構えました。延寿は同田貫と共に肥後に於ける代表的刀工で、後に「菊池千本槍」と呼ばれる槍を作っています。延寿一族は、刀工村として、この屋敷を本拠地として200年以上栄えました。現在は八坂神社が建てられ、父弘村（菊池延寿）とともに、延寿大明神として祀られています。



認定番号 第ふるさと H21-15号  
推薦者 下西寺区

## 韓国発見シリーズ⑮ こんにはち金は金です

15回目の今回は「韓国の秋夕」について紹介します。



菊池市役所  
国際観光マネージャー  
金 相廷さん

今年9月22日が秋夕だ。これは日本のお盆にあたる。旧暦8月15日に毎年行われる。秋夕は「ハンガウィ」とも言う。ハンは「大きい」、ガウィは「中」という意味の古語で「8月の真ん中の大きい日」という意味だ。秋夕の起源は歴史書「三國史記」によれば、新羅の儒理王の時から始まり、当初は嘉俳という言葉に変わった。この日は、お正月、端午と共に韓国の3大祝日の一つだ。

この時期は真夏の暑さも和らぎ、涼しい時だ。秋夕ごろには広い野原に五穀が実り、色とりどりに染まったあらゆる果物があふれる。新米でお酒とソルピョンを作り、新鮮な果物と食べ物を用意、祭祀を執り行なって参りをする。「松ピョン」とは胡麻・小豆・栗などのあんを入れた白餅を松の葉の上で蒸したものだ。秋夕にこれを自分の年の数だけ食べる。ソルピョンを食べると松のように元気になると言われる。

秋夕は爽やかで気持ちの良い季節なので、人びとは浮き浮きした気持ちで遊び楽しむ。村人が集まって綱引きをしたり、農楽隊を先頭に村を練り歩き豊作を祈る。若者たちはシルム（相撲のような伝統競技）をし、勝った人には賞品として子牛を与える。弓術大会も開く。

韓国の南部地方では強い雄鶏を育て闘鶏をしたり、闘牛を楽しむが、このような遊びは豊作を祝う意味で広く行われた。今も秋夕になると韓国は「民族の大移動」と言われるほど故郷に帰る人びとで賑わう。秋夕は1日だが普通、企業や役所では3日くらいの連休になる。高速道路は帰省客で混む。普段ソウルと釜山間は4、5時間で充分なのに、この時期は2、3倍の時間がかかる。このような道路事情は生中継される。渋滞で混む高速道路の脇に臨時トイレが設置されることもある。

普段は遠く離れている家族が集まり、団らんの時を過ごす秋夕の風景は、韓国を代表する古い歴史を持つ祝日であり、今も綿綿と続いている。